

ServiceNow Micro-Certification – DevOps Change Velocity 試験仕様書

はじめに

ServiceNow DevOps Change Velocity Micro-Certification 試験の仕様では、DevOps Change Velocity 実装の認定を受ける際の目的、対象者、試験オプション、試験コンテンツの範囲、試験フレームワーク、および前提条件を定義します。

試験の目的

DevOps Change Velocity Micro-Certification 試験は、DevOps Change Velocity アプリケーションの構成、実装、メンテナンス、および管理に役立つスキルと基本的な知識を合格者が備えていることを証明するものです。

試験対象者

DevOps Change Velocity Micro-Certification 試験は、ServiceNow の顧客、パートナー、および従業員が利用できます。

試験準備

試験の問題は、公式の ServiceNow トレーニング教材、ServiceNow ドキュメントサイト、ServiceNow 開発者サイトに基づいています。オンラインで公開されているその他の学習教材は公式ではなく、試験準備用としては推奨されません。

ServiceNow トレーニングパスの前提条件

DevOps Change Velocity Micro-Certification アセスメントシミュレーターの準備として、次の前提条件のトレーニングコースを完了することをお勧めします。トレーニングパスの一部としての情報には、試験のソース資料が含まれています。

- [DevOps Change Velocity 実装者](#) 学習パス。

推奨されるその他の経験

- ServiceNow 展開プロジェクトまたは ServiceNow インスタンスのメンテナンスに参加した 6 か月の現場経験
- 業界の用語、略語、頭文字語についての一般的な知識

試験の目的

アセスメントシミュレーターを使用すると、受験者はタスクに基づいたシナリオを読み、タスクに基づいて一連の要件を満たす作業を実行し、作業が正しく行われていることを確認することで、自分の知識を示すことができます。

学習分野	試験における割合 (%)
インストールとセットアップ	10 %
ツールのデータ連携の構成	40 %
変更の迅速化の構成	40 %
インサイト	10 %
合計	100 %

試験の登録

各受験者は、DevOps Change Velocity 実装学習パスで Assessment Simulator Micro-Certification に登録できます。試験は、シミュレートされた環境を使用して [Now Learning](#) から直接受験できます。

試験の構成

試験は 12 個のタスクで構成されています。受験者は、検査の各タスクについて、タスク内の割り当てられた作業を完了して検証します。

試験結果

各タスクは個別に採点され、合格するには 80% の成績が必要です。試験を完了して送信すると、すぐに合否結果が計算されて表示されます。受験者へのより詳しい結果の提供は行われません。

再受験

受験者は、マイクロ資格に合格するためにアセスメントシミュレーターを何回でも再受験することができます。

タスク例

サンプルアイテム #1:

コード変更のコミット

ユーザーストーリー:

DevOps Change Velocity 管理者として、コード変更がアプリケーションに対して行われ、パイプラインを通じて本番環境に昇格されていることを検証する必要があります。

要件:

このタスクでは、変更ポリシー (動的決定) により自動的に承認される UAT 展開ステップの通常の変更要求を利用する必要があります。本番ステップでは、手動承認ポリシーを使用する通常の変更要求を利用します。

受け入れ条件:

- コードコミットの変更の結果として、**[DevOps Change Velocity] > [パイプライン変更要求 (Pipeline Change Request)]**でアプリケーションに対して2つのパイプライン変更要求が作成されます。
- コードの変更は、適切なアプリケーション環境 (UAT、本番環境など) に展開されます。